

9. 次年度調査計画案について

9. 次年度調査計画案について

本調査結果を踏まえ、河川ごみ発生抑制対策事業の調査計画案を検討した。

9-1 河川ごみ発生抑制対策事業

9-1-1 調査方法

(1) 調査方法

本調査では、河川敷等にごみが多く散乱していたり、粗大ごみ等の大型ごみが投棄されている地点・箇所を確認した（いわゆるごみのホットスポット）。本調査計画案は、そのような地点（対策実施地点）を対象として、散乱ごみ等を減らすための対策（発生抑制対策）を立案・実施し、実際にその効果を検証することで、市町村等が取り組みやすく、かつ、効果的な対策を計画するものである。

ごみの散乱防止対策の3つのアプローチは表9-1-1に示すとおりであり、特に「捨てにくい場づくり」に着目して計画を立案する。

なお、対策による効果検証は、河川敷等の陸域の散乱ごみの低減効果ばかりでなく、河川ごみの低減の観点から河川を流下するごみや対策実施地点の周辺環境の実態も把握する必要がある。このため、対策の実施にあわせて、河川流下ごみ調査、周辺環境等の実態把握調査も検討する。

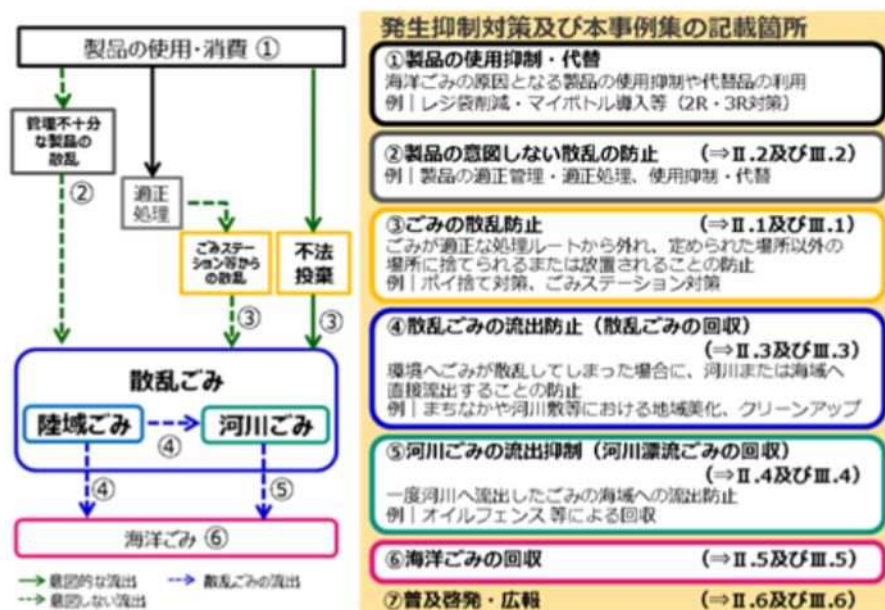


図 9-1-1 海洋への流出経路と発生抑制対策

出典：海洋ごみ発生抑制対策等事例集（環境省）

表 9-1-1 ごみの散乱防止対策の3つのアプローチ

アプローチの手段		対策例
①捨てにくい「場」づくり	環境介入を行い、景観を整える	草刈り、植栽の整備、花壇の設置等
②捨てにくい社会基盤づくり	罰則等を設け、規制を強化する	ポイ捨て禁止条例、監視カメラの設置等
③ごみステーションでの散乱防止	ごみステーションの適正利用	利用マナーの啓発、使用機材の改良等

出典：海洋ごみ発生抑制対策等事例集（環境省）

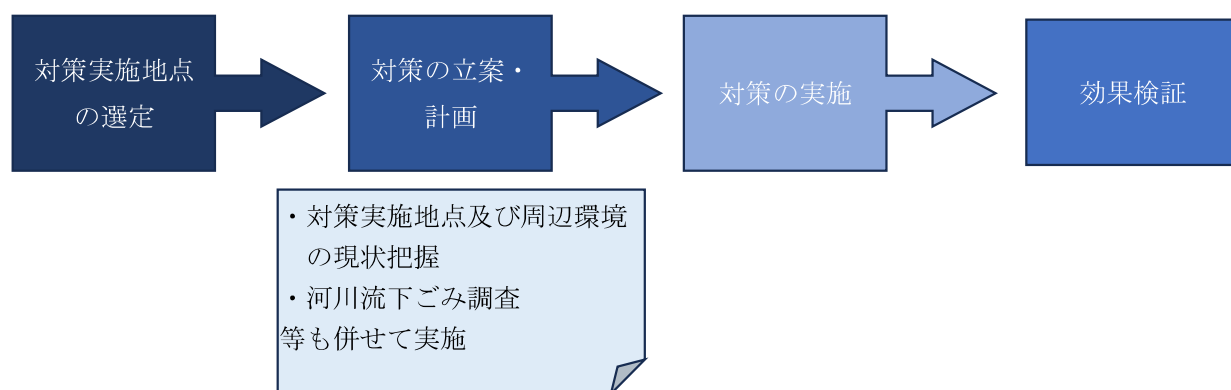


図 9-1-2 調査手順の概要

(2) 対策実施地点

対策実施地点は、ごみ散乱防止対策の効果・検証を実証するためにも、過去から現在に至るまで恒常的にごみが投棄されている地点が望ましい。本調査では、各河川内外でのごみのホットスポットを確認した。このうち、表9-1-2に示すように、「御笠川」、「長峡川」、「建花寺川」、「堂面川」の4河川について、恒常的にごみが投棄されている様子が伺えた地点を対策実施候補地点として選定した。なお、釣川では目立ったホットスポットを確認できなかったため選定していない。

表 9-1-2 河川ごみ発生抑制対策実施候補地点

河川	候補地点	概況	選定理由
御笠川	観世音寺大橋～高橋口橋	<u>ごみランク 6</u> 同区間の複数個所でごみホットスポットを確認。 周辺は公共施設、住宅地。河川側道は遊歩道で人通りもある。	ごみの外観から比較的新しいごみと想定。河川側道の遊歩道に看板設置や草刈り等の防止対策を実施しやすい。
御笠川	五条橋～白川橋 白川橋～建重寺橋	<u>ごみランク 4</u> 河川敷の長い区間にごみが散乱している。近隣に公共施設、高校がある。河川敷（左岸）には遊歩道が整備されている。	現地調査（河川敷）で比較的新しいごみの投棄を確認できた。このため、恒常的にごみが投棄されていることも想定されるため、対策による即自的な効果を把握しやすい。
長峽川	長音寺橋～亀川橋	<u>ごみランク 6</u> 河川敷の広い範囲にまとまったごみが散乱している。近隣に小学校があり、河川敷には遊歩道が整備されている。	河川敷の遊歩道に看板設置等の防止対策を実施しやすく、また、近隣の小学校による河川美化活動の看板も設置されている。
建花寺川	遠賀川合流点橋（仮称）～二瀬橋 二瀬橋～森本橋	<u>ごみランク 7</u> 河川敷の広い範囲に大型ごみも含めて、ごみが散乱している。 周辺は事業所であり、二瀬橋下流側の河川敷沿いの道路にはあまり歩行者がいないが、同橋上流の道路には人通りがある。	河川敷、側道ともにごみが散乱している。二瀬橋下流は、人通りが少ない場所であることから、確信犯的な投棄者がいる場合、対策による効果を検証しやすい。但し、看板等の設置には工夫が必要である。同橋上流は、人通りが一定程度あり、また、通学路にもなっていることから、看板設置や草刈り等の防止対策を実施しやすい。
堂面河	健昭橋～新堂面橋	<u>ごみランク 5</u> 河川から少し離れた場所の雑種地にごみが散乱している。 河口付近、周辺は太陽光発電所で基本、人の通らない箇所。	かなり以前からのごみのホットスポット。一時期ごみが撤去された時期もあったが、近年、新たな不法投棄がなされている。不法投棄が繰り返されていると想定されるため、防止対策の効果を検証しやすいと思われる。

【御笠川】

五条橋～白川橋

白川橋～建重寺橋



観世音寺大橋～高橋口橋

長音寺橋～亀川橋

【長峽川】



図 9-1-3 御笠川、長峽川における調査候補地点

遠賀川合流点橋(仮称)～二瀬橋
二瀬橋～森本橋

【建花寺川】



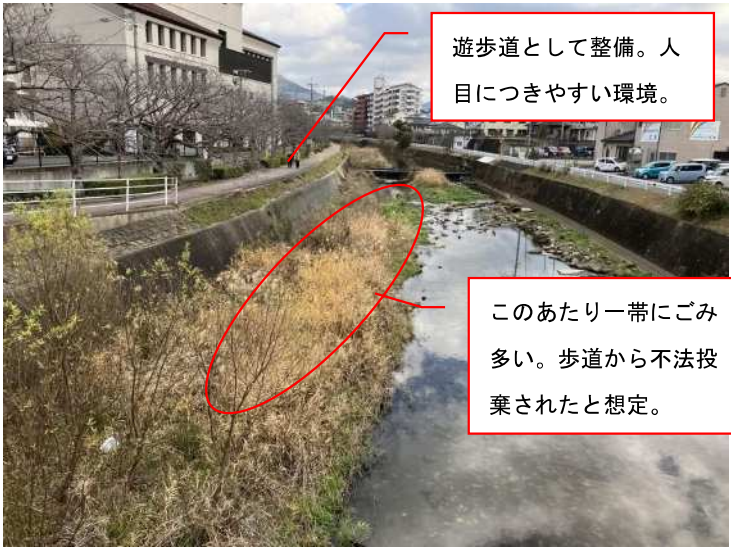
健昭橋～新堂面橋

【堂面川】



図 9-1-4 建花寺川、堂面川における調査候補地点

表 9-1-3 対策実施候補地点 御笠川（観世音寺大橋～高橋口橋）

区間(長さ、評価)	緯度・経度	状況
観世音寺大橋～高橋口橋 (430m、ランク 6)	33 度 30 分 42.08 秒 130 度 31 分 22.86 秒	 遊歩道として整備。人目につきやすい環境。 このあたり一帯にごみ多い。歩道から不法投棄されたと想定。
		 ごみの性状から自然に流下・堆積したとは考えにくい。不法投棄されたと想定。
		

※確認したごみ：プラ容器包装、レジ袋、ペットボトル、空き缶、紙製容器包装

表 9-1-4 対策実施候補地点 御笠川（五条橋～白川橋、白川橋～建重寺橋）

区間(長さ、評価)	緯度・経度	状況
五条橋～白川橋 (300m、ランク4) 白川橋～建重寺橋 (380m、ランク4)	33 度 30 分 58.13 秒 130 度 31 分 33.79 秒	
		
		

※確認したごみ：ペットボトル、紙製容器包装、プラ容器包装、レジ袋、ビニル、空き缶、プラ製品

表 9-1-5 対策実施候補地点 長峽川（長音寺橋～亀川橋）

区間(長さ、評価)	緯度・経度	状況
長音寺橋～亀川橋 (695m、ランク6)	33 度 43 分 40.10 秒 130 度 56 分 59.16 秒	
		
		

河川に遊歩道があり、河川敷内にアクセスしやすい。同じメーカーの容器を多く確認したため不法投棄を想定したが、地形的に上流から流下したものが溜まった可能性もある。

※確認したごみ： レジ袋、ビニル、プラ製品、ペットボトル

表 9-1-6 対策実施候補地点 建花寺川（遠賀川合流点橋（仮称）～二瀬橋）

番号 区間(長さ、評価)	緯度・経度	状況
遠賀川合流点橋 (仮称)～二瀬橋 (290m、ランク 7)	33 度 39 分 10.10 秒 130 度 40 分 59.32 秒	 この一帯にごみが多い。大型ごみも投棄されていた。
		 古い冷蔵庫
		 ごみ単体ではなく、袋ごとの投棄も目立っていた。比較的古いごみであると想定

※確認したごみ： ペットボトル、プラ製品、ビニル、紙製容器包装、プラ容器包装、プラ片、空き缶、タバコ、紙、レジ袋、家電（テレビ、冷蔵庫）

表 9-1-7 対策実施候補地点 建花寺川（二瀬橋～森本橋）

番号 区間(長さ、評価)	緯度・経度	状況
二瀬橋～森本橋 (950m、ランク 7)	33 度 39 分 6.76 秒 130 度 40 分 56.70 秒	 車も通行するが、人（自転車含む）も多く通行
		 ごみの投棄場所から比較的近いごみであることも想定
		

※確認したごみ： ペットボトル、プラ製品、プラ容器包装、ビニル、紙、紙製容器包装、ダンボール、レジ袋、家電（プリンタ）

表 9-1- 8 対策実施候補地点 堂面川（健昭橋～新堂面橋）

区間(長さ、評価)	緯度・経度	状況
健昭橋～新堂面橋 (1250m、ランク5)	33 度 2 分 59.51 秒 130 度 25 分 58.17 秒	 本河川側道（河口付近）周辺の複数箇所において、不法投棄を確認した。
		 比較的最近（約1年の範囲）、投棄されたと想定。
		 このような堤防があるため、河川にごみが流入する可能性は低い。 この道路はほとんど通行人・車はないと思われる。

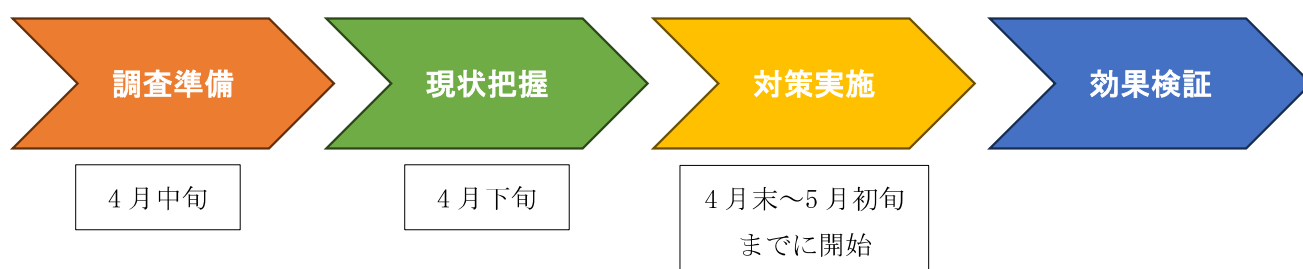
※確認したごみ： ペットボトル、プラ容器包装、プラ製品、発泡スチロール、紙製容器包装、プラ片

(3) 実施時期

発生抑制対策の実施時期は、河川流下ごみの実態をより正確に把握するために、河川水量が一定量を期待できる時期である春季から夏季が望ましい。具体的には4月中には調査地点を選定、準備を完了し、4月末から5月初旬に対策実施をはじめる（この時期を過ぎると、梅雨で河川水量が多くなることや台風リスクも高まるため、一定期間、調査等の実施が困難になる恐れがある）。

候補地点における現状把握は、発生抑制対策に先立って実施する必要がある。本調査で行われた現状把握の状況も十分に加味しながら4月中に行うものとする。

発生抑制対策の実施期間は、定常的な不法投棄者がいることを想定し、少なくとも2週間、場合によっては1ヵ月程度の期間で実施する。なお、前述のとおり梅雨の期間中の対策実施は困難であるため、梅雨を挟んだ夏季以降の対策の継続も検討する必要がある。



※河川流下ごみ調査は対策実施にあわせて行う。

図 9-1-5 調査時期のイメージ（梅雨前に開始のパターン）